



「想定外」に対処する
Better Tomorrow!

鈴木 修 (スズキ) |
下成 誠 (自動車技術会 会計担当理事) ||

技術の窓 電気自動車と電源

2
中桐 滋 (東京大学)

特集 | 響け！日本のモノづくり

総括・展望

- 21世紀のものづくり—現場力を支える生産性運動の今日的展開— 北浦正行 (日本生産性本部) 4
- ものづくりを超えて 木村英紀 (理化学研究所) 10
- 技能伝承とデジタル化 武藤一夫 (静岡理科大学) 16
- 日本が拓く自動車と自動車産業の未来 川口盛之助 (アーサー・D・リトル (ジャパン)) 24

プロダクトデザイン (FACTORY)

- ものづくりと産業競争力の基本概念 藤本隆宏 (東京大学大学院) 31
- スポーツカー, 「響き」の心理と感性 林 毅 (トヨタ自動車) 37
- 移動する喜びを子供たちへ
—まったく新しい乗り物はこうして生まれた— 吉岡伴明 (元本田技術研究所) 43
- ICカード自動改札機の13.5°の傾き 山中俊治 (慶應義塾大学大学院) 50

匠の美 (ONLY ONE)

- CAMUI型ハイブリッドロケットの開発とその利用 永田晴紀 (北海道大学大学院) 56
- 鍛造アイアン打感の追求 久松吾郎 (ミスノ) 62
- 新幹線の顔をつくり出す打ち出し加工技術 山下竜登 (山下工業所) 68
- モノ創りの原点はからくりにある 池田重晴 (アイシン・エイ・ダブリュ) 73
- モデルを作るとのこと
—プラモデルからダイカストモデルへ, 作る楽しさから集める楽しさ— 木谷真人 (エムエムピー) 81

ものづくり教育の実践

- 学生フォーミュラ活動を通じた人材育成
—東京大学フォーミュラファクトリーにおけるものづくり教育— 草加浩平 (東京大学大学院) 84
- つくばチャレンジにおける自律移動技術と磁気ナビゲーション法
—人とロボットが共存する社会を目指して— 尾崎功一 (宇都宮大学) 91



超の世界 「東京スカイツリー®」 世界一の高さをつくる【後編】 97
川端裕司 (大林組)

なるほどのコーナー
スポットライト ARスカウターモードを搭載したカーナビゲーションシステム 99
市原直彦・山崎 理・廣瀬智博・伊藤宏平・高橋克彦 (パイオニア)

規格委員会
活動レポート 天然ガス自動車分科会の活動の紹介 101
原 裕一 (いすゞエンジニアリング)

技術会通信

- ・会 員 103
- ・会議予定 104
- ・参加者募集 108
- ・2010年度 学術講演会運営功績感謝状 授与報告 109
- ・教員公募 117
- ・2011年秋季大会ファイナルタイムテーブル 118
- ・霞が関便り 121

表紙のコメント

日本のモノづくりの特徴は、数多くの想像力、知識や技術力がバランスよく組み合わせられ創られている。それらをイコライズし、響きわたるイメージを表現しました。

内藤功一 (UD トラックス)



次号：自動車技術 vol.65 2011.11

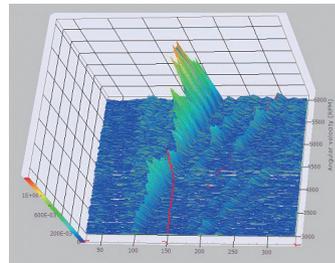
特集 自動車を取巻く資源・エネルギー問題

これまでになく、エネルギーへの関心が高まっている昨今。自動車に関わるエネルギー問題を幅広く、紹介する。

乞うご期待!!

技術で飛翔 [東陽テクニカ]

FFTアナライザ 技術セミナーのご案内



最新のFFTアナライザソフトウェアを操作しながら振動・騒音計測の基礎知識を習得できます。本セミナーは当社のFFTアナライザのユーザの方々と同製品のご購入を検討いただいている方々を対象として開催していますが、下記日程のセミナーについては、ご参加資格を特に設けずに実施いたします。本セミナーは参加費用は必要ありませんので、ぜひこの機会にご参加ください

11月 17日(木) 東京

12月 1日(木) 愛知

2012年 1月 19日(木) 東京

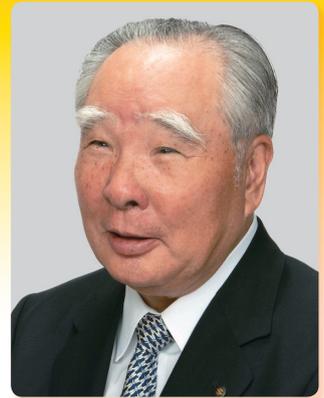
(予定)

ご参加を希望される方は、下記URLよりお申し込みをお願いします。セミナー内容や開催場所、製品紹介などが掲載されておりますので併せてご参照ください。

<http://www.toyo.co.jp/car>

株式会社東陽テクニカ ☎03(3279)0771 FAX03(3246)0645

「想定外」に対処する



Osamu Suzuki

鈴木 修

スズキ機取締役会長兼社長

今年の流行語大賞は「想定外」に決まるのではないのでしょうか。そういえるほど今年には日本にとって思いもよらない出来事が数多く起きた1年でした。スズキにとっても想定外のことばかりで、今回この自動車技術会誌に巻頭言を依頼されたこともその一つ。お断りしようとしたのですが、「あなたのところが自動車メーカーで最後になりますのでひとつよろしく」といわれ、義理を欠くこともできずにこの文章を書いております。

さて、私も自動車メーカーにとりまして、想定外とは何なのでしょう。ユーザの皆様の環境意識の急激な高まり、あるいは、先の大震災で露呈した地震・津波ならびにそれによる電力供給への懸念などが挙げられると思います。旧態依然とした内燃機関は、石油資源の枯渇が現実視されかつ地球温暖化防止のためCO₂排出量の削減が叫ばれている昨今、さらなる燃費の改善が急務とされております。一方、電気自動車については原子力発電の抱えるリスクが露呈された今、電力不足の懸念をクリアしなければならなくなりました。原子力発電を含む電力供給を前提とした自動車の電気化は再考を余儀なくされているのではないのでしょうか。

とはいえ、燃費の改善、CO₂排出量の削減、自動車産業全体での省資源ということは、避けて通ることができない命題であることは明らかです。この大変難しい状況を生き抜くためには、たとえば既存の内燃機関の燃費向上、排出ガスの浄化や、電気自動車の航続距離の向上、消費電力の低減といった技術的な努力が不可欠です。エンジン、マフラー、モーター、バッテリーなど直接関わりのある部品の改善だけではなく、空力などの走行抵抗、車体の軽量化などクルマ全体でこれまでの常識に囚われた商品作り・技術開発を継続するのではなく、今の常識に

則った新たな視点での技術開発であり、商品作りをすることが求められているのです。私は技術者ではありませんので、車体を1kg軽量化すること、燃費を1km良くすること、CO₂の排出量を1g減らすことがどれだけ大変なのかわかりませんが、22世紀以降もクルマが社会に存在し続け、人の暮らしを豊かにするお手伝いをし続けることができるよう、技術革新を図るしかありません。

そこで大事なことはコストです。極端なことをいえば、お金さえあればどんなクルマでもできるのです。ただお客様にお買い求めいただけない技術では、「技術」とはいえませんが意味がありません。たとえガソリン1リッターで50km走行できて、CO₂排出量が0であっても、お客様が使ってくださいならなければ無価値なのです。技術者の皆さんはとかくコストを軽視しがちなのですが、これからの技術者は開発の際に、「費用対効果」をより意識していただかなくてはならないと思います。地球に優しく、お客様に優しく、そして会社にも優しい技術開発を心がけていただきたいと思っております。

クルマというものには、燃費、CO₂排出量といった現実的な性能が求められる一方で、スタイリングなどの夢・あこがれといった感性に訴えかける性能が必要とされています。技術者の皆さんには、ぜひともこれらを両立した誰もが乗りたくなるようなクルマを世に送り出していきたいと思っております。

1953年3月中央大学法学部卒業、1958年4月鈴木自動車工業株式会社入社、1963年11月同社取締役就任、1967年12月常務取締役就任、1973年11月専務取締役就任、1978年6月取締役社長就任、1990年10月スズキ株式会社に社名変更、2000年6月同社取締役会長就任、2008年12月取締役会長兼社長就任、現在に至る。

Better Tomorrow !



Makoto Shimonari

下 成 誠

(公社)自動車技術会 会計担当理事

2010年度から会計を担当しております下成です。

まだ2年目ですが、これまでの会活動を通じて、大変多くの方々と新たに面識を持たせていただきました。有難いことだと思います。

ご承知のように、自動車技術会の活動は多岐にわたり、実に多くのご支援、ご協力をいただきながら成り立っております。

北海道から九州に計6つの支部があり、現在(2011.7.1)の個人会員数は44,725名、賛助会員(法人)536社であります。

2011年度の予算は13.2億円(昨年比107.8%)。展示会の出展社数の増加や国際会議開催により、昨年よりも拡大基調の編成になりますが、収支は均衡した予算としました。

また、今後の経済状況が不透明のため、引き続き支出削減策の継続により、収支均衡を保つよう取り組んでおります。

今年度は4月1日より公益社団法人としてのスタートを切り、大きな変化点を経験しましたが、そのメリットを生かしながら、関係各位の着実な諸活動の結果、お陰様で会計上もおおむね計画通り、順調に推移しております。

今後も関係各位の参加される沢山のイベントが目白押しです。手に届いた第9回学生フォーミュラ大会の資料を見て、会計担当理事になり2010年9月に初めて見せていただいたときのことを思い出します。場所は静岡県袋井市内の小笠山総合運動公園。台風の影響にもめげず、多くの学生諸君が頑張っておられました。雨、風、

そして台風一過のあとは猛暑。帽子をかぶっても辛いほどの炎天下の厳しい天気をものともせず活動されている様子は毎年開催される夏の甲子園野球を連想しました。

興味のない人からすれば、何でこんな状況の中でやるのかと思うかもしれませんが、「好き」だから、「熱中」できるし、苦にならないのだと思います。昨今の若者が自動車に対する関心が薄れている傾向にあるとはいえ、こうやって、「夢中」になって活動している人たちを見て「すごい」と「感動」したものです。

もちろん、自動車産業に働く人たちから見ても身近なところで「すごい」ものが沢山あると思います。

身近な「すごい」ものをもっと情報発信していくことで新たなエネルギーを作っていくのではないのでしょうか。

自動車産業は広範囲な関連産業と関わりがあります。自動車は2~3万点の部品の組み合わせの結合体として、環境、CO₂削減、燃費向上、騒音、リサイクルなど多くの課題の解決に日夜、取り組まれています。

一つ一つの部品に「すごい」ものを託して、自動車に期待される使命が果たされるのだと思います。

昨日よりは今日、今日よりは明日と世のため人のために役に立つ自動車に関われることを幸せに思います。

自動車技術会が一層、活力をもち、今日よりも明日に希望のもてる社会に更に貢献できることを切に願っております。

1976年トヨタ自動車㈱入社、2004年日野自動車㈱執行役員、2008年常務執行役員、2011年顧問、㈱日野ヒューテック代表取締役社長。

キッズエンジニア 2011

クルマの科学にふれながら楽しく学べる!

「見て」、「乗って」、「作って」なっとく!

— 2011/8/5 FRI 6 SAT インテックス大阪 (4号館) —

— 昨年名古屋、昨年横浜での開催を経て、多くの小学生親子の好評を得て参りました「キッズエンジニア」が今年で第4回を迎え、初めて大阪で開催されました。このイベントは、これからの未来を担っていく小学生を対象に、自動車を通じて科学技術やものづくり技術を体験的に学習できる機会を提供し、ものづくりや理科の楽しさに触れてもらうことをねらいとしています。教室でじっくりクルマの科学を学べる「教室プログラム」、予約不要でお気軽に体験できる「展示プログラム」を自動車関連企業や団体等に提供して頂き、期間中は3,653名の親子で大いに賑わいました。

●教室プログラム



●ファンビークル
—クルマのしくみを体験しよう—
自分たちで電動カートを組み立て、完成した車両で専用コースを走ってみました。

本田技研工業



●ワクワクころころカー
様々な形の木材を使って自由にクルマをつくりました。

本田技研工業



●電気をつくって模型を走らせよう!
環境に優しい電気をつくって模型を走らせました。電気自動車が行く未来の街も見ることが出来ました。

日産自動車



●体験しよう、石油の不思議。調べてみよう、未来のエネルギー。
石油系燃料や燃料電池について学ぶことで、「エネルギーの大切さ」を改めて感じることができました。

JX 日鉱日石エネルギー



●カーデザイン教室
プロのデザイナーからスケッチの描き方を教わり、「かっこいいクルマ」をデザインしました。

自動車技術会 デザイン部門委員会



●エンジンがつけられるようすや地球にやさしい電気自動車を知ろう
クルマのエンジンはどのように作られるの? 電気自動車がなぜ地球にやさしいの? みんなで考えてみました。

三菱自動車工業



●ウインドカーを走らせてみよう！

風に向かって走るウインドカーを作って専用コースでタイムアタックに挑戦しました。

ヤマハ発動機



●キッズラボ
ーからくり改善ー

CO₂とクルマの関係や工場内でCO₂を排出しない工夫（からくり改善）を学んだ後、「楽しいからくり工作」にチャレンジしました。

マツダ



●感じたり、はかったり、いきもののふしぎなセンサーを体験しよう

いきものが持っている不思議な「センサー」の力を、機械を使って体験してみました。

堀場製作所



●モーターと電池を作ろう

磁石、エナメル線、電池の材料で回るモーターや、炭、食塩水、アルミホイルの材料で豆電球を光らせる電池を作りました。

日立製作所、日立オートモティブシステムズ



●発見！電動車いすのしくみ

モーターで車輪を動かして走る、電動車いすのしくみを学び、試乗体験しました。

スズキ



●楽しく学ぼう“まさつ”のふしぎ

暮らしの中にある“まさつ”を楽しく学びながら体験しました。

大豊工業



●はじめてのパソコン体験

ー立体ぬり絵教室ー
パソコンでいろいろなクルマやキャラクターの立体ぬり絵を体験しました。回転すると立体になるのに感動でした。

ソリッドワークス・ジャパン



●パソコンで自分だけのオリジナルミニカーを作ろう！

パソコンで実際にクルマなどの設計で使われているソフトウェアを使ってミニカーを3Dでデザインし、色づけし、プリントしました。

ソリッドワークス・ジャパン



●銅せんまきまき 作って学ぼう電じしゃく

銅線を巻いて電磁石を作り、さらにモーターに変身させてミニカーに組み込み競争して遊びました。

トヨタ自動車



●わくわく くるま研究所

ーめざせ！未来のエンジニアー
エンジニアになりきって、自動走行ロボットを使いながらクルマづくりの設計・試作・評価の流れを学びました。

アイシン精機



●遊星ギャってなんだろう

ー自動車の変速機の心臓部を分解しようー
クルマを走らせるのに重要な心臓部である変速機を分解・組み立てながら理解してもらいました。

ジヤトコ



●ハイブリッドカーを作って、エコについて考えよう！

ソーラーパネルと乾電池で動くハイブリッドカーを作りながらエコについて学びました。

パナソニック

「見て」、「乗って」、「作って」なっとく!



●クルマをつなぐ“電波”のふしぎ
—クイズとアニメで学んでみよう！—
カーナビや交通情報などに使われているクルマをつなぐ電波を学び、みんなで未来のクルマ通信を考えました

富士通テン



●紙コップスピーカーを作ろう

紙コップスピーカーを楽しく作りました。

自動車技術会関西支部、学生自動車研究所

●展示プログラム



●大学生が設計・製作したフォーミュラカー

学生が約一年かけて製作した手作りマシンを紹介しました。

大阪大学、京都大学



●燃料電池車のしくみを勉強しよう

水の電気分解で水素をつくり、燃料電池車を走らせて基本的なしくみを学びました。

ダイハツ工業



●自動車に当たる空気の流れを測定しよう

クルマに当たっている空気の流れの測定を体験してそのしくみを学びました。

ダイハツ工業



●かぜのちからくらべ

自分の手で風のパワーを作り出し、さらに自分だけの風車を作りました。

カルソニックカンセイ



●今から約 90 年前に日本人の手で初めて設計・生産されたトラック

今から約 90 年前に日本人の手で設計・生産された日本発のトラックを展示しました。

日野自動車



●天然ガス自動車コナン号と遊ぼう!

名探偵コナンをデザインした天然ガス自動車コナン号が登場し、クイズやビンゴで天然ガス自動車について学びました。

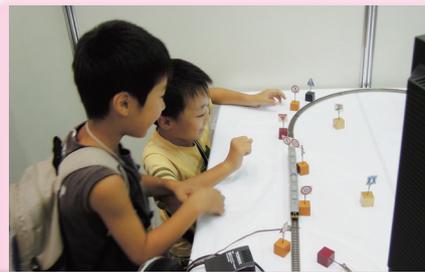
日本ガス協会



●シートベルト効果体験

時速 5 キロの衝突体験でシートベルトの働きを体験しました。

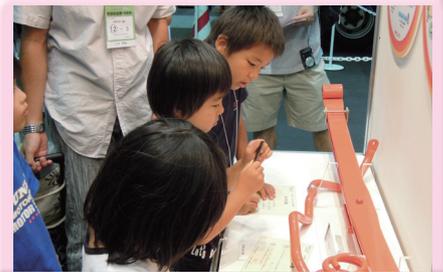
日本自動車連盟



●カメラが道路標識を見つけ出す

カメラが制限速度を知らせてくれることを鉄道モデルで体験しました。

デンソー



●なるほど、オドロキ!ばねの世界

「ばね」はいろんなところで役立っています。「ばね」について学びました。

ニッパツ

キッズエンジニア 2011 「見て」、「乗って」、「作って」なっとく!

クルマの科学にふれながら楽しく学べる!



●シートベルトはどうやってロックするの?
—シミュレーターで体験!—
シートベルト着用の効果を体験しました。シートベルトを正しく着用していれば回転しても落ちません。

タカタ



●2つの目をもつクルマとは?
—ぶつからないクルマをめざして—
2つのカメラで前を見張り、あぶない時に助けてくれるクルマのしくみについて学びました。

富士重工業



●ペーパークラフトコンテスト

紙のクルマを組み立てて、色をぬり、自分だけのクルマを作りました。

自動車技術会

●働くクルマに乗ってみよう



●パトカー・白バイ試乗 提供: 大阪府警察本部



●はしご車体験 提供: 大阪市消防局

●会場風景



TOPICS BRAND & IDENTITY in Japan.

Essay

Electric Vehicles and their Power Source	Shigeru Nakagiri	2
Tokyo Sky Tree — Boast the Tower of the World's Tallest (second part)	Yuji Kawabata	97
Car Navigation System with AR Scouter Mode Naohiki Ichihara, Osamu Yamazaki, Chihiro Hirose, Kohei Itoh, Katsuhiko Takahashi		99

Technical Report

Introduction of Activity of Natural Gas Vehicles Subcommittee Meeting	Yuichi Hara	101
---	-------------	-----

Topics

Manufacturing in the 21st Century — Productivity Movement and Field Strength	Masayuki Kitaura	4
Beyond “Monozukuri”	Hidenori Kimura	10
Know-how Tradition and Digitalization	Kazuo Muto	16
New Horizon of the Japanese Automobile and the Automotive Industry	Morinosuke Kawaguchi	24
Basic Concepts of Manufacturing Industrial Competitiveness	Takahiro Fujimoto	31
Psychological Meanings and Modalities of Acoustics on a Sports Car	Takeshi Hayashi	37
To Teach Children the Joy of Movement — Thus was Born a Whole New Ride —	Tomoaki Yoshioka	43
The Angle of about 13 Degrees of Wireless Automatic Fare Collection Gate	Shunji Yamanaka	50
Development and Utilization of CAMUI-type Hybrid Rocket	Harunori Nagata	56
Pursuit of “Feel” on the Impact Sound of a Forged Iron Golf Club	Goro Hisamatsu	62
3D Sheet Metal Forming for Shinkansen Face Production	Tatsuto Yamashita	68
The Karakuri Technique in the Process of Manufacturing	Shigeharu Ikeda	73
What a Beautiful World of Miniature Cars. — Joy of Self Building Plastic Kit and Collecting Die Cast Miniature Model	Makoto Kiya	81
Human Resource Development through the Student Formula SAE Competition of JAPAN — Monozukuri Education in the University of Tokyo Formula Factory —	Kohei Kusaka	84
Autonomous Navigation Technology and Magnetic Navigation Method in Tsukuba Challenge — Aim for the Human Society Coexisting Mobile Robots —	Koichi Ozaki	91

会 員

■会員数

個人会員

(2011年9月1日現在)

賛助会員

内訳	支部								前年同月 比率 (%)	前年同月 計	合 計
	北海道	東 北	関 東	中 部	関 西	九 州	海 外	合 計			
名誉会員	1	0	29	11	3	2	0	46	107.0	43	540 (527社) () 前年同月
正 会 員	186	376	16 839	19 256	4 925	364	252	42 198	102.2	41 309	
学生会員	79	142	1 457	608	551	191	5	3 033	99.7	3 043	
合 計	266	518	18 325	19 875	5 479	557	257	45 277	102.0	44 395	

■賛助会員紹介

下記の法人が2011年9月から入会致しました。(入会受付順)

◆大塚化学株式会社

主な事業内容：化学品製造業

住 所：徳島県徳島市川内町加賀須野 463

電 話：088-665-1689

◆TDK株式会社

主な事業内容：電子部品製造

住所：千葉県市川市東大和田 2-15-7

電話：047-378-9049

●●● 会員証明書 (在会証明) 発行のお知らせ ●●●

学生会員の皆様へ

本会では学生会員の方の学生自動車研究会(学自研)などの学会活動を書面(会員証明書)で証明いたします。就職活動などでご活用いただければ幸いです。会員証明書をご希望の方は、下記申請手順に従ってお申し込みをお願いします。

申請手順

- ① 本会 WEB サイトより、「会員証明書申請書」をダウンロードする。
- ② 所属支部事務局へ「会員証明書申請書」を送付。
- ③ 支部事務局にて活動内容を確認。
- ④ 確認後に本部事務局より「会員証明書」を指定先に郵送。

問合せ先

102-0076 東京都千代田区五番町 10-2
五番町センタービル 5階
公益社団法人自動車技術会
運営グループ 会員課 土肥, 阿部
TEL: 03-3262-8213 FAX: 03-3261-2204
E-mail: mbs@jsae.or.jp

「会員証明書申請書」ならびに「支部事務局一覧」は本会 WEB サイトをご確認ください。 <http://www.jsae.or.jp/>

お知らせ

東日本大震災への義援金拠出について

問合せ先：総務課 soumu@jsae.or.jp

この度の東日本大震災においては、多数の尊い命が奪われ、いまだ行方不明の方も多く、甚大な被害が生じたことに、改めて哀悼の意を表し、被災された方々に心よりお見舞いを申し上げます。

さて、自動車技術会では、被災された方々へのご支援、ならびに被災地の復旧・復興に貢献するため、去る5月に開催いたしました、大会・展示会などの収入の一部から、500万円を日本赤十字社に寄附いたしましたことをご報告致します。

いまだ被災地におかれましては厳しい状況が続いていますが、一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

国内開催会議予定

・太字（青色欄）は、(公社)自動車技術会の主催又は共催

開催日	名 称	開催地	主催団体・連絡先
2011年 10.3-6	第4回人間—生活環境系国際会議	北海道大学学术交流会館 〔北海道〕	人間—生活環境系国際会議組織委員会 ☎ 011-706-6281
10.7	第174回ゴム技術シンポジウム「ゴムの汎用分析」	東京電業会館 〔東京都〕	(社)日本ゴム協会 ☎ 03-3401-2957
10.12-14	2011年秋季大会	札幌コンベンションセンター 〔北海道〕	(公社)自動車技術会育成・イベントグループ ☎ 03-3262-8214 E-mail: event@jsae.or.jp
10.12-14	第7回構造物の安全性・信頼性に関する国内シンポジウム	日本学会会議 〔東京都〕	(社)日本建築学会 JCOSSAR2011 係 ☎ 03-3456-2057
10.13-14	第4回トライボロジー入門西日本講座 —トライボロジーの基本知識と考え方—	同志社大学今出川キャンパス 〔京都府〕	(社)日本トライボロジー学会 ☎ 03-3434-1926
10.14-15	成形加工シンポジウム'11(秋田)	秋田大学工学資源部 〔秋田県〕	(社)プラスチック成形加工学会 ☎ 03-5436-3822
10.14- 11.22	平成23年度経営者のための次世代自動車最新技術・動向講座 (北陸地区)	石川県地場産業振興センター 〔石川県〕	(社)中部産業連盟 ☎ 052-931-9826
10.17	名古屋大学材料バックキャストテクノロジーシンポジウム 「太陽エネルギー社会構築のための材料テクノロジーの開拓」	名古屋大学 ES 総合館 〔愛知県〕	名古屋大学大学院工学研究科材料 バックキャストテクノロジー研究センター ☎ 052-789-3589
10.17-18	標準化と品質管理全国大会 2011	都市センターホテル 〔東京都〕	(財)日本規格協会 ☎ 03-3586-8086
10.17-21	第9回マリンエンジニアリング国際シンポジウム	神戸国際会議場 〔兵庫県〕	(社)日本マリンエンジニアリング学会 ☎ 03-3539-5920
10.19	第175回ゴム技術シンポジウム「加工性を左右する未加硫ゴムの特性 II」	東京電業会館 〔東京都〕	(社)日本ゴム協会 ☎ 03-3401-2957
10.19-22	次世代ものづくり基盤技術産業展 2011	ポートメッセなごや 〔愛知県〕	名古屋国際見本市委員会 ☎ 052-735-4831
10.20-21	第36回複合材料シンポジウム	フォレスト仙台 〔宮城県〕	日本複合材料学会 ☎ 03-5981-6011
10.20-21	SICE セミナー「実践的な制御理論」	常翔学園大阪センター 〔大阪府〕	(公社)計測自動制御学会 ☎ 03-3814-4121
10.22-23	第30回日本シミュレーション学会大会	東海大学高輪キャンパス 〔東京都〕	日本シミュレーション学会 ☎ 03-3235-2150
10.24	シンポジウム「ガス燃料エンジンの現状と将来」(No.01-11)	東京理科大学森戸記念館 〔東京都〕	(公社)自動車技術会育成・イベントグループ ☎ 03-3262-8214 Email: sympo@jsae.or.jp プログラムは本誌8月号に掲載
10.25-28	第8回 JFPS フルードパワー国際シンポジウム	沖縄コンベンションセンター 〔沖縄県〕	(社)日本フルードパワーシステム学会 ☎ 03-3433-8441
10.25-29	IPF Japan 2011 (国際プラスチックフェア)	幕張メッセ 〔千葉県〕	国際プラスチックフェア協議会 ☎ 03-3542-1487
10.27	第293回塑性加工シンポジウム「自動車の軽量化を目指した中空部品 に挑む最新の塑性加工技術」	ホテル日航豊橋 〔愛知県〕	(社)日本塑性加工学会 ☎ 03-3435-8301
10.31- 11.2	スポーツ・アンド・ヒューマン・ダイナミクス 2011	京都大学百周年時計台記念館 〔京都府〕	(一社)日本機械学会 ☎ 03-5360-3500
11.1-2	56th FRP CON-EX2011 講演会	大阪市立工業研究所 〔大阪府〕	(社)強化プラスチック協会 ☎ 03-5812-3370
11.4	CFD 技術部門委員会公開委員会「CFD で何が見える?!」	ヤマハ発動機コミュニケーションプラザ 〔静岡県〕	(公社)自動車技術会技術・規格グループ ☎ 03-3262-8235 Email: tech@jsae.or.jp
11.4-5	第10回 ITS シンポジウム 2011	東京大学生産技術研究所 〔東京都〕	(特)ITS Japan ☎ 03-5777-1011

開催日	名 称	開催地	主催団体・連絡先
11.8-10	SETC 2011 (Small Engine Technology Conference)	札幌コンベンションセンター 〔北海道〕	(公社)自動車技術会育成・イベントグループ ☎ 03-3262-8214 Email: SETC2011@jsae.or.jp URL: http://www.setc-jsae.com/
11.10	第 43 回塑性加工技術フォーラム「女性エンジニアの一日」 －女性エンジニアとリケジョの交流会－	成蹊大学理工学部 〔東京都〕	(社)日本塑性加工学会 ☎ 03-3435-8301
11.11	シンポジウム「ドライバの特性評価・理解に基づく自動車開発の取り組みと展望」(No.02-11)	工学院大学アーバンテックホール 〔東京都〕	(公社)自動車技術会育成・イベントグループ ☎ 03-3262-8214 Email: sympo@jsae.or.jp プログラムは本誌 9 月号に掲載
11.11	日本の塗装技術の底力は何か？－塗装の最新，過去，未来－	日本ペイント株式会社東京事業所 〔東京都〕	日本塗装技術協会 ☎ 03-3663-5534
11.13-18	第 10 回国際ガスタービン会議(IGTC' 11 Osaka)	大阪国際会議場 〔大阪府〕	(社)日本ガスタービン学会 ☎ 03-3365-0095
11.14	シンポジウム「動力伝達系の最新技術 2011」(No.03-11)	刈谷市産業振興センター 〔愛知県〕	(公社)自動車技術会育成・イベントグループ ☎ 03-3262-8214 Email: sympo@jsae.or.jp プログラムは本誌 9 月号に掲載
11.16	レーザーだからできる高機能高付加価値加工	キャンパス・イノベーションセンター東京 〔東京都〕	(公社)精密工学会 ☎ 03-5226-5191
11.16-18	ものづくり NEXT ↑ 2011	東京ビッグサイト 〔東京都〕	(社)日本能率協会 ☎ 03-3434-0587
11.16-18	システムコントロールフェア 2011	東京ビッグサイト 〔東京都〕	(社)日本電機工業会・ (社)日本電気制御機器工業会 ☎ 03-3556-5885
11.17-18	No.11-11 「歯車技術基礎講座」	東京工業大学すずかけ台キャンパス 〔神奈川県〕	(一社)日本機械学会 ☎ 03-5360-3500
11.18	講習会「自動車排出微粒子の評価手法の基礎と実践」(No.04-11)	化学会館大ホール 〔東京都〕	(公社)自動車技術会育成・イベントグループ ☎ 03-3262-8214 Email: sympo@jsae.or.jp プログラムは本誌 9 月号に掲載
11.19-20	第 54 回自動制御連合講演会	豊橋技術科学大学 〔愛知県〕	(公社)計測自動制御学会 ☎ 03-3814-4121
11.20	第 19 回静岡県高校生エコラン大会	学校法人 静岡自動車学園 静岡県自動車学校静岡校 〔静岡県〕	静岡県高校生エコラン大会 事務局 静岡県立掛川工業高校 ☎ 0537-22-7255
11.21	第 4 回自動車工学中級講座 「環境規制とディーゼル技術の過去・現在・未来」	ウインクあいち 902 会議室 〔愛知県〕	(公社)自動車技術会育成・イベントグループ ☎ 03-3262-8214 Email: chukyukouza@jsae.or.jp プログラムは本誌本号に掲載
11.22	第 53 回スガウエザリング学術講演会	アルカディア市ヶ谷 〔東京都〕	(財)スガウエザリング技術振興財団 ☎ 03-3354-5248
11.22	平成 23 年度「自動車のアルミ化技術講習会」	機械振興会館 〔東京都〕	(一社)日本アルミニウム協会 ☎ 03-3538-0221
11.24	製造系ソフトウェア最前線	パシフィック横浜会議センター 211号室〔神奈川県〕	(公社)精密工学会 ☎ 03-5226-5191
11.24-25	日本音響学会第 119 回技術講習会「音の心理学的測定法講座」	東京大学生産技術研究所 〔東京都〕	(社)日本音響学会 ☎ 03-5256-1020
11.24-25	X 線応力測定講習会(実習付)	東京都市大学世田谷キャンパス ほか 〔東京都〕	(公社)日本材料学会 ☎ 075-761-5321
11.25- 2012年2.24	平成 23 年度経営者のための次世代自動車最新技術・動向講座 (東海地区)	愛知県産業技術研究所 〔愛知県〕	(社)中部産業連盟 ☎ 052-931-9826
11.26	第 4 回運転と認知機能研究会	昭和大学医学部 臨床講堂 〔東京都〕	運転と認知機能研究会 ☎ 03-5363-3829
11.29- 12.1	第 22 回内燃機関シンポジウム －エンジンテクノロジーの高度化とその伝承－	東工大蔵前会館 〔東京都〕	(公社)自動車技術会育成・イベントグループ ☎ 03-3262-8214 Email: ice2011@jsae.or.jp URL: http://www.jsae.or.jp/calendar/#1596

開催日	名 称	開催地	主催団体・連絡先
11.30-12.1	水素エネルギー協会大会	タワーホール船堀 〔東京都〕	(一社)水素エネルギー協会 ☎ 03-5841-1866
11.30-12.1	第 19 回新粉末冶金入門講座	京都市芸繊維大学 〔京都府〕	(社)粉末冶金協会 ☎ 075-721-3650
12.1	第 54 回スガウエザリング学術講演会	大阪国際会議場(グランキューブ大阪) 〔大阪府〕	(財)スガウエザリング技術振興財団 ☎ 03-3354-5248
12.2	シンポジウム「これからの自動車の姿—環境・安全安心を支える技術」(No.05-11)	慶應義塾大学三田キャンパス 〔東京都〕	(公)自動車技術会育成・イベントグループ ☎ 03-3262-8214 Email: sympo@jsae.or.jp プログラムは本誌本号に掲載
12.2-11	第 42 回東京モーターショー 2011	東京ビッグサイト 〔東京都〕	(一社)日本自動車工業会 ☎ 03-5405-6127
12.3	低温工学・超電導学会 応用研究会 熱音響工学講習会	東北大学東京分室 〔東京都〕	(公)低温工学・超電導学会 ☎ 03-3818-4539
12.5-7	第 49 回燃焼シンポジウム	慶應義塾大学日吉キャンパス 〔東京都〕	(一社)日本燃焼学会 ☎ 03-5307-1172
12.7-8	第 14 回スターリングサイクルシンポジウム	日本科学未来館 〔東京都〕	(一社)日本機械学会 ☎ 03-5360-3500
12.7-9	IDW'11 - The 18th International Display Workshops	名古屋国際会議場 〔愛知県〕	(社)映像情報メディア学会
12.7-9	第 20 回交通・物流部門大会	川崎市産業振興会館 〔神奈川県〕	(一社)日本機械学会 ☎ 03-5360-3500
12.9	シンポジウム「環境と振動騒音性能の両立」(No.06-11)	工学院大学アーバンテックホール 〔東京都〕	(公)自動車技術会育成・イベントグループ ☎ 03-3262-8214 Email: sympo@jsae.or.jp プログラムは本誌本号に掲載
12.10	2011 年度計算力学技術者(CAE 技術者) 資格認定試験(1・2 級)	東京工業大学 ほか 〔東京都〕	(一社)日本機械学会 ☎ 03-5360-3500
12.12	第 5 回自動車工学中級講座 「電気自動車を巡る国際規格と法規」	ウインクあいち 901 会議室 〔愛知県〕	(公)自動車技術会育成・イベントグループ ☎ 03-3262-8214 Email: chukyukouza@jsae.or.jp プログラムは本誌本号に掲載
12.14	シンポジウム「更なる進化を求めるガソリンエンジン技術」(No.07-11)	早稲田大学理工学部 63 号館 〔東京都〕	(公)自動車技術会育成・イベントグループ ☎ 03-3262-8214 Email: sympo@jsae.or.jp プログラムは本誌本号に掲載
12.16	企画特別講演会「機械設計者のための粉末焼結材料の力学」	近畿大学会館 〔大阪府〕	(一社)日本機械学会 ☎ 03-5360-3500
12.16	産業技術総合研究所 新燃料自動車技術研究センター研究発表会	タワーホール船堀 〔東京都〕	(財)産業技術総合研究所 新燃料自動車技術研究センター ☎ 029-861-4441
12.19	第 6 回自動車工学中級講座 「燃費規制とガソリン技術の過去・現在・未来」	化学会館大ホール 〔東京都〕	(公)自動車技術会育成・イベントグループ ☎ 03-3262-8214 Email: chukyukouza@jsae.or.jp プログラムは本誌本号に掲載
12.19-20	第 20 回微粒化シンポジウム	広島大学医学部 〔広島県〕	日本液体微粒化学会 ☎ 06-6466-1588
12.19-21	第 25 回数値流体力学シンポジウム	大阪大学コンベンションセンター 〔大阪府〕	(社)日本流体力学学会 ☎ 03-3714-0427
2012 年 1.7-8	第 24 回バイオエンジニアリング講演会	大阪大学豊中キャンパス 〔大阪府〕	(一社)日本機械学会 ☎ 03-5360-3500
1.12	シンポジウム「車両運動性能部門委員会」企画	化学会館大ホール 〔東京都〕	(公)自動車技術会育成・イベントグループ ☎ 03-3262-8214 Email: sympo@jsae.or.jp プログラムは本誌 11 月号に掲載予定
1.17	シンポジウム「計測・診断部門委員会」企画	東京理科大学森戸記念館 〔東京都〕	(公)自動車技術会育成・イベントグループ ☎ 03-3262-8214 Email: sympo@jsae.or.jp プログラムは本誌 11 月号に掲載予定

開催日	名 称	開催地	主催団体・連絡先
1.25	シンポジウム「車両特性デザイン部門委員会」企画	東京理科大学森戸記念館 〔東京都〕	(公社)自動車技術会育成・イベントグループ ☎ 03-3262-8214 Email: sympo@jsae.or.jp プログラムは本誌 11 月号に掲載予定
1.26	シンポジウム「ディーゼル機関部門委員会／燃料潤滑油部門委員会」企画	工学院大学アーバンテックホール 〔東京都〕	(公社)自動車技術会育成・イベントグループ ☎ 03-3262-8214 Email: sympo@jsae.or.jp プログラムは本誌 11 月号に掲載予定
2.2	シンポジウム「構造強度部門委員会」企画	工学院大学アーバンテックホール 〔東京都〕	(公社)自動車技術会育成・イベントグループ ☎ 03-3262-8214 Email: sympo@jsae.or.jp プログラムは本誌 12 月号に掲載予定
2.17	シンポジウム「電気動力技術部門委員会」企画	工学院大学アーバンテックホール 〔東京都〕	(公社)自動車技術会育成・イベントグループ ☎ 03-3262-8214 Email: sympo@jsae.or.jp プログラムは本誌 12 月号に掲載予定
2.24	シンポジウム「ガソリン機関部門委員会／ディーゼル機関部門委員会」企画	工学院大学アーバンテックホール 〔東京都〕	(公社)自動車技術会育成・イベントグループ ☎ 03-3262-8214 Email: sympo@jsae.or.jp プログラムは本誌 12 月号に掲載予定
2.29	シンポジウム「車体口バスト特設委員会」企画	工学院大学 712 教室 〔東京都〕	(公社)自動車技術会育成・イベントグループ ☎ 03-3262-8214 Email: sympo@jsae.or.jp プログラムは本誌 12 月号に掲載予定
3.2	シンポジウム「モータスポーツ部門委員会」企画	工学院大学アーバンテックホール 〔東京都〕	(公社)自動車技術会育成・イベントグループ ☎ 03-3262-8214 Email: sympo@jsae.or.jp プログラムは本誌 1 月号に掲載予定
3.8	シンポジウム「流体技術部門委員会」企画	東京大学生産技術研究所 〔東京都〕	(公社)自動車技術会育成・イベントグループ ☎ 03-3262-8214 Email: sympo@jsae.or.jp プログラムは本誌 1 月号に掲載予定
3.9	第 27 回塗料・塗装研究発表会	東京大学生産技術研究所 〔東京都〕	日本塗装技術協会 ☎ 03-3663-5534
3.15-16	モバイル'12「時代を開くソーシャルメディアとデジタルネイティブたち」	大阪市立大学杉本キャンパス 田中記念館〔大阪府〕	(特)モバイル学会 ☎ 078-737-2349
3.16	シンポジウム「タイヤ／路面摩擦特性部門委員会」企画	化学会館大ホール 〔東京都〕	(公社)自動車技術会育成・イベントグループ ☎ 03-3262-8214 Email: sympo@jsae.or.jp プログラムは本誌 1 月号に掲載予定
3.27	シンポジウム「二輪車の運動特性部門委員会」企画	日本大学 CST ホール 〔東京都〕	(公社)自動車技術会育成・イベントグループ ☎ 03-3262-8214 Email: sympo@jsae.or.jp プログラムは本誌 1 月号に掲載予定
4.15-18	第 13 回世界精密鑄造会議	京都国際会館 〔京都府〕	(社)日本鑄造協会 ☎ 03-3432-2991
5.23-25	2012 年春季大会	パシフィコ横浜 〔神奈川県〕	(公社)自動車技術会育成・イベントグループ ☎ 03-3262-8214 Email: event@jsae.or.jp
10.14-18	2012 年粉末冶金国際会議 (PM2012 YOKOHAMA)	パシフィコ横浜 〔神奈川県〕	2012 年粉末冶金国際会議運営事務局 ☎ 03-3219-3541
11.7-10	Asian-MMS2012	東京工業大学大岡山キャンパス 〔東京都〕	Asian-MMS2012 大会委員長 岩附信行(東京工業大学) ☎ 03-5734-2538

●当会が協賛している会議等には、当会会員が主催団体会員と同等の資格で参加できるものもありますので、主催団体に直接お問合せ下さい。
主催者が予告なく日程や会場等変更する場合がございますので、参加を希望される方は予め主催団体・連絡先にお問合せ下さい。

国外開催会議予定

・太字（青色欄）は、(公社)自動車技術会の主催又は共催

開催日	名 称	開催地	主催団体・連絡先
10.6-8	APAC-16 (The 16th Asia Pacific Automotive Engineering Conference)	Chennai (India)	SAE India (インド自動車技術会) URL: http://www.apac16.org 詳細は主催者発表内容をご確認下さい。 国内問合せ先: (公社)自動車技術会 国際課 Tel. 03-3262-8214 Email: globe@jsae.or.jp
2012年 9.9-12	AVEC'12 (The 11th International Symposium on Advanced Vehicle Control)	Seoul (Korea)	KSAE (韓国自動車技術会) URL: http://avec12.ksae.org Email: avec12@ksae.org
11.27-30	FISITA 2012 World Automotive Congress Beijing	Beijing (China)	SAE-China (中国汽车工程学会) URL: http://www.fisita2012.com アブストラクト応募期限: 2011年11月30日 講演募集記事は本誌8月号に掲載 国内問合せ先: (公社)自動車技術会 国際課 Tel. 03-3262-8214 Email: globe@jsae.or.jp

このカレンダーは、国内外の関連機関から案内があった国際会議の中から掲載致しております。主催者が予告なく日程や会場等変更する場合がございますので、参加を希望される方は予め主催団体・連絡先にお問合せ下さい。

訂 正

本誌「自動車技術」Vol65, No.9 記事「匠の技」の写真キャプション名に誤りがありましたので訂正を致します。

掲載頁: p. 114

誤) 中子(なかご)の品質検査をする田中さん 正) 中子(なかご)の品質検査をする田口さん

参加者募集 関東支部

明日へのテクノロジーセミナー

問合せ先: 新潟工業短期大学 生涯学習委員会 担当 鈴木
Tel. 025-269-3174 Fax. 025-268-1222 E-mail: shougai@po.niigata-ct.ac.jp

テ ー マ: 「どこまでいける低燃費」

日 時: 2011年11月12日(土) 13:30 ~ 16:30

会 場: 新潟工業短期大学 2301 講義室

セミナー I: 軽自動車! 低燃費への挑戦!

ダイハツ工業(株) 技術本部

エグゼクティブチーフエンジニア 上田 亨氏

セミナー II: 次世代省エネ車普及への課題と取り組み

トヨタ自動車(株) 技術統括部 主査 河井真人氏

スケジュール(セミナー公演時間: 講演 40分 質疑応答 20分)

13:30 開講挨拶 新潟工業短期大学学長 高野英資

13:35 セミナー I 軽自動車! 低燃費への挑戦!

14:35 休 憩 (15分)

14:50 セミナー II 次世代省エネ車普及への課題と取り組み

15:50 休 憩 (10分)

16:00 質疑応答

16:30 閉 講

講座対象者: 一般市民

定 員: 80名

申込方法: 本学ホームページの申込フォーム, 又は FAX・E-mail にて, 氏名, 所属, 連絡先住所, 電話番号を明記の上, お申し込み下さい。

URL: <http://www.niigata-ct.ac.jp/>

申込締切日: 2011年11月9日(水)

参加費: 無料

後援依頼先:

(公社)自動車技術会関東支部, 国土交通省北陸信越運輸局,
(社)新潟県自動車整備振興会, (株)新潟日報社, NHK 新潟放送局,
(株)新潟放送

参加者募集 第4回自動車工学中級講座

環境規制とディーゼル技術の過去・現在・未来

問合せ先：育成・イベントグループ 大平 Tel. 03-3262-8214 Fax. 03-3261-2204
【URL】 <http://www.jsae.or.jp/calendar/#1780> E-mail: chukyukouza@jsae.or.jp

日時：2011年11月21日(月) 13:10~17:30
会場：ウイंकあいち 902 会議室
(〒450-0002 名古屋市中村区名駅4-4-38)
【URL】 <http://www.winc-aichi.jp/access/>

主催：(公社)自動車技術会
企画：技術者育成委員会
定員：80名

参加費(消費税込、資料代金込)：

正会員 5,250円 学生会員 1,050円
賛助会員 7,875円 一般 10,500円

※冊子・論文形式のテキストはございません。プレゼンデータ又は講師が用意した聴講者用資料をコピーしたものを配布致します。

参加申込方法：次のいずれかの方法でお申込下さい。

◆オンライン参加登録：(カード決済が可能です)
イベントカレンダー(【URL】 <http://www.jsae.or.jp/calendar/#1780>)よりお申込ください。

◆インターネットをご利用できない方：上記、問合せ先へご連絡下さい。

参加申込締切日：2011年11月14日(月)

参加申込キャンセルについて：

申込締切日まで：キャンセル料は発生致しません。ご入金済の場合は送金手数料を除き返金致します。

申込締切日翌日以降：ご出欠に係らず参加費全額をお支払い頂きます。

CPDについて：本講習会に参加されると自動車エンジニアレベル認定のための「継続能力開発ポイント(CPDポイント)」が6ポイント取得できます。詳細のご案内【URL】 <https://tech.jsae.or.jp/rireki/menu.html>

参加のおすすめ

地球温暖化を抑止するために、CO₂の排出削減が求められ、電気自動車の登場が相次いでいる。しかし石油エネルギーに頼らざるを得ない近未来まで、化石燃料を節約でき、燃料も選ばない内燃機関システムの開発・改良は喫緊の技術課題である。その筆頭候補であるディーゼルエンジンは、発明された当初から世界の注目を受け、多くの期待と課題を背負いながら、現在でも排出ガスのNO_xやPM、重量増や高コストという課題の克服に取り組んでいる。本講座では、まずディーゼルエンジンの誕生から、その期待された性能と実用化の歴史を技術哲学的な視点で論説し、続いて本技術を取り巻く環境規制の成り立ちと全体像、今後の行方から、現代の技術課題と対応技術を指摘する。次に現在のディーゼル技術のポテンシャルを理論的に考察し、平明に解説する。最後に最新の実用化技術について、その要領と技術内容、具体的な効果を中級技術者に講義する。

技術者育成委員会講座企画 WG リーダー 白石修士

プログラム：

13:10 開会挨拶 技術者育成委員会委員長
工学院大学 雑賀 高氏

司会 田代春美氏(株本田技術研究所)

13:15 ディーゼルエンジンの歴史と技術屋の哲学
元日野自動車(株) 鈴木 孝氏

14:15 ディーゼルエンジンの環境規制の動向と対応技術
早稲田大学大学院 大聖泰弘氏

15:15 休憩

15:25 クリーンディーゼルのポテンシャルと現在
北海道大学大学院 小川英之氏

16:25 新型ディーゼルエンジンのコンセプトと実用化技術
マツダ(株) 寺沢保幸氏

17:25 閉会挨拶 技術者育成委員会講座企画 WG リーダー
(株本田技術研究所 白石修士氏

17:30 終了

※プログラムは講師、会場の都合などにより予告なく変更となる場合があります。

お知らせ

2010年度 学術講演会運営功績感謝状 授与

本制度は、本会の学術講演会の活性化ならびに講演数の増加に寄与することを目的として学術講演会に顕著な貢献をいただいた個人・団体の功績を称えて感謝状を授与するもので、本年より制定されました。第1回目となる今回は、マツダ(株)の畑秀二氏に感謝状を授与しました。

なお、授与式は2011年8月31日に開催された技術会議において行われました。



畑 秀二氏
マツダ(株)

参加者募集 第5回自動車工学中級講座

電気自動車を巡る国際規格と法規

問合せ先：育成・イベントグループ 大平 Tel. 03-3262-8214 Fax. 03-3261-2204
【URL】 <http://www.jsae.or.jp/calendar/#1781> E-mail: chukyukouza@jsae.or.jp

日時：2011年12月12日(月) 13:30~17:30
会場：ウインクあいち 901 会議室
(〒450-0002 名古屋市中村区名駅4-4-38)
【URL】 <http://www.winc-aichi.jp/access/>

主催：(公社)自動車技術会
企画：技術者育成委員会
定員：80名

参加費(消費税込、資料代金込)：
正会員 5,250円 学生会員 1,050円
賛助会員 7,875円 一般 10,500円

※冊子・論文形式のテキストはございません。プレゼンデータ又は講師が用意した聴講者用資料をコピーしたものを配布致します。

参加申込方法：次のいずれかの方法でお申込下さい。

◆オンライン参加登録：(カード決済が可能です)
イベントカレンダー(【URL】 <http://www.jsae.or.jp/calendar/#1781>)よりお申込ください。

◆インターネットをご利用できない方：上記、問合せ先へご連絡下さい。

参加申込締切日：2011年12月5日(月)

参加申込キャンセルについて：

申込締切日まで：キャンセル料は発生致しません。ご入金済の場合は送金手数料を除き返金致します。

申込締切日翌日以降：ご出欠に係らず参加費全額をお支払い頂きます。

CPDについて：本講習会に参加されると自動車エンジニアレベル認定のための「継続能力開発ポイント(CPDポイント)」が6ポイント取得できます。

詳細のご案内【URL】 <https://tech.jsae.or.jp/rireki/menu.html>

参加のすすめ

電気自動車の開発競争が世界中で激しくなっている。日本で発明されたリチウムイオン二次電池の性能向上は、ガソリン自動車が電気自動車に転換する鍵を握る。そして、その普及のためのコスト低減競争やインフラ整備には構成部品の規格・標準化が必須である。さらに、自動車としての安全・環境性確保のためには強制的な技術法規や検査・認証法を整備する必要もある。本講座ではまず、電気自動車の核心であるリチウムイオン二次電池の発明者をお迎えし、続いて国際標準化推進の専門家と国際認証のための検査機関の専門家から、本分野の核心と全体像、将来の行方について、中級技術者のために解説をいただく。

技術者育成委員会講座企画 WG リーダー 白石修士

プログラム：

13:30 開会挨拶 技術者育成委員会委員長
工学院大学 雑賀 高氏

司会 田代春美氏(株本田技術研究所)

13:35 リチウムイオン電池の現在と将来
旭化成(株) 吉野 彰氏

14:45 休憩

14:55 電気自動車に関する国際規格
(財)日本自動車研究所 富岡秀徳氏

16:05 休憩

16:15 電気自動車に関する国際法規
テュフ ラインランド ジャパン(株) 川北正勝氏

17:25 閉会挨拶 技術者育成委員会講座企画 WG リーダー
株本田技術研究所 白石修士氏

17:30 終了

※プログラムは講師、会場の都合などにより予告なく変更となる場合があります。

出版案内

自動車技術ハンドブック 第10分冊「設計(EV・ハイブリッド)編」

問合せ先：出版グループ 吉村 Tel.03-3262-8215 E-mail: book@jsae.or.jp

「設計(EV・ハイブリッド)編」、大好評発売中です！

◆EV・ハイブリッドに携わる設計者をアシストするために、構成部品の基礎理論と要素設計そして車両制御/性能設計を専門的に解説します

【発行日】2011年3月

【仕様】B5判/448ページ(巻頭グラビア8ページ)

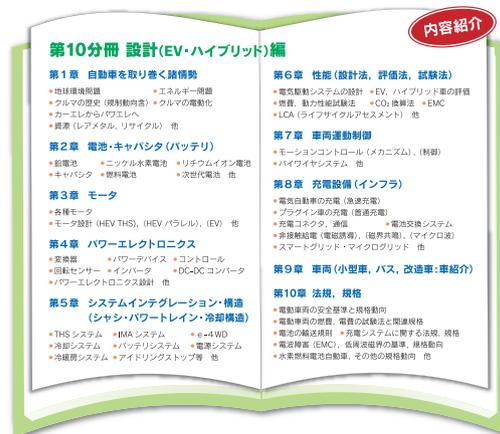
【価格】定価：5,775円

会員価格：4,620円(消費税込)

送料：380円

詳細及び購入方法は、本会ウェブサイト上の出版案内をご覧ください。

<http://tech.jsae.or.jp/hanbai/>



参加者募集 第6回自動車工学中級講座

燃費規制とガソリン技術の過去・現在・未来

問合せ先：育成・イベントグループ 大平 Tel. 03-3262-8214 Fax. 03-3261-2204
【URL】 <http://www.jsae.or.jp/calendar/#1782> E-mail: chukyukouza@jsae.or.jp

日時：2011年12月19日(月) 13:20~17:30
会場：化学会館大ホール
(〒101-8307 千代田区神田駿河台1-5)
【URL】 <http://www.chemistry.or.jp/kaimu/office/map.html>

主催：(公社)自動車技術会
企画：技術者育成委員会
定員：80名

参加費(消費税込、資料代金込)：

正会員 5,250円 学生会員 1,050円
賛助会員 7,875円 一般 10,500円

※冊子・論文形式のテキストはございません。プレゼンデータ又は講師が用意した聴講者用資料をコピーしたものを配布致します。

参加申込方法：次のいずれかの方法でお申込下さい。

- ◆オンライン参加登録：(カード決済が可能です)
イベントカレンダー(【URL】 <http://www.jsae.or.jp/calendar/#1782>)よりお申込ください。
- ◆インターネットをご利用できない方：上記、問合せ先へご連絡下さい。

参加申込締切日：2011年12月12日(月)

参加申込キャンセルについて：

申込締切日まで：キャンセル料は発生致しません。ご入金済の場合は送金手数料を除き返金致します。
申込締切日翌日以降：ご出欠に係らず参加費全額をお支払い頂きます。
CPDについて：本講習会に参加されると自動車エンジニアレベル認定のための「継続能力開発ポイント(CPDポイント)」が6ポイント取得できます。
詳細のご案内【URL】 <https://tech.jsae.or.jp/rireki/menu.html>

参加のおすすめ

自動車の世紀とも言われた20世紀、ガソリンエンジンは乗用車の主要な動力となった。それは、先行した蒸気機関や電気自動車、後発のディーゼル機関に比べて総合性能で勝り、小型・軽量、高速・低振動で扱いやすく、航続距離も長かった。そして現在、地球温暖化の元凶といわれるCO₂の排出量を抑制することは最優先の課題となり、EVやHV、ディーゼル機関が脚光を浴びている。しかし、計測技術や制御技術の発達によって、ガソリンエンジンの本来の特質を見直し、より高い熱効率を目指して内燃機関全体の中で再生させることも急務となっている。本講座では、ガソリンエンジンの原点から発展の歴史を振り返り、現代に至る燃費規制の実態と対応技術の全体像を把握する。次に、熱機関全体におけるガソリンエンジンのポジションからその本質や発展の方向性を探り、最後に最新の実用化技術について、その技術内容、具体的な効果を中堅技術者に解説する。

技術者育成委員会講座企画 WG リーダー 白石修士

プログラム：

- 13:20 開会挨拶 技術者育成委員会委員長
工学院大学 雑賀 高氏
- 司会 田代春美氏(株本田技術研究所)
- 13:25 ガソリンエンジンの歴史と環境・燃費規制
早稲田大学大学院 大聖泰弘氏
- 14:45 休憩
- 14:55 ガソリンエンジンの実際とその本質
元日産自動車(株) 村中重夫氏
- 16:05 休憩
- 16:15 最新のガソリンエンジンとその燃費性能
マツダ(株) 磯部利太郎氏
- 17:25 閉会挨拶 技術者育成委員会講座企画 WG リーダー
(株本田技術研究所 白石修士氏)
- 17:30 終了

※プログラムは講師、会場の都合などにより予告なく変更となる場合があります。

出版案内

自動車技術文献抄録誌掲載データ(CD-R)

問合せ先：出版グループ 吉村 Tel.03-3262-8215 Fax.03-3261-2204 E-mail: book@jsae.or.jp

「自動車技術文献抄録誌」の抄録を1年単位(1月~12月)でデータにて販売しています。海外文献の検索・技術動向調査・データベース化に活用いただけます。

自動車技術文献抄録誌掲載データ(CD-R)

- ◆形態 ◆テキスト形式のデータをCD-Rにて提供
収録件数：2,600~3,000件
- ◆価格 ◆抄録誌年間購読者※ 定価 105,000円 会員価格 84,000円
抄録誌年間非購読者 定価 157,500円 会員価格 126,000円
- ◆申込方法◆
本会ウェブサイト → 出版案内 → 自動車技術文献抄録誌掲載データ(CD-ROM)
(下記URL)またはFaxでお申込み下さい。
【URL】 <http://tech.jsae.or.jp/hanbai/> Fax. 03-3261-2204



※PDF・冊子・CD-ROMで年間購読している方々

参加者募集 No.5-11シンポジウム

これからの自動車の姿～環境・安全安心を支える技術～

問合せ先：育成・イベントグループ 大平 Tel. 03-3262-8214 Fax. 03-3261-2204
【URL】 <http://www.jsae.or.jp/sympo/2011/scdl.php> E-mail: sympo@jsae.or.jp

日 時：2011年12月2日(金) 9:40～16:20
会 場：慶應義塾大学 三田キャンパス 北館4階会議室
(東京都港区三田2-15-45)
主 催：公益社団法人自動車技術会
協 賛：(予定) (公社)計測自動制御学会・(公社)精密工学会・
(公社)砥粒加工学会・(一社)日本機械学会・(社)日本材
料学会・(社)日本塑性加工学会・(公社)日本鑄造工学会・
(社)日本鉄鋼協会・(社)日本トライボロジー学会・(一社)
日本ロボット学会・(社)プラスチック成形加工学会・
(一社)日本自動車工業会・(社)日本自動車部品工業会・
(社)日本鍛造協会・型技術協会・スケジューリング学
会・(社)電気加工学会・(社)日本金型工業会・(社)日本工
作機械工業会・(社)日本工作機器工業会
企 画：生産加工部門委員会
定 員：120名

参加費(消費税込・テキスト1冊込)：

正 会 員 15,750円 学生会員 3,150円
賛助会員 22,050円 一般の方 31,500円
協賛学協会の会員 22,050円

参加申込方法：次のいずれかの方法でお申込み下さい。

- ①オンライン参加登録：(カード決済ができるようになりま
した) イベントカレンダー (【URL】 [http://www.jsae.or.jp/
calendar/](http://www.jsae.or.jp/calendar/)) またはシンポジウムページ (【URL】 [http://
www.jsae.or.jp/sympo/2011/scdl.php](http://www.jsae.or.jp/sympo/2011/scdl.php))
- ②インターネットをご利用できない方：
上記、問合せ先へご連絡下さい。

参加申込締切日：2011年11月25日(金)

参加申込キャンセルについて：

申込締切日まで：キャンセル料は発生いたしません。ご入金
済の場合は、送金手数料を除き返金いたし
ます。
申込締切日翌日以降：ご出欠にかかわらずキャンセル料として、
参加費全額をお申し受けます。なお、開催
終了後、テキストは送付いたします。

生産加工部門委員会



委員長
青山英樹



幹事
磯部恒雄

参加のおすすめ

ハイブリッド車や電気自動車、あるいは、高燃費エンジン、
ぶつからない車など、自動車の技術開発はめざましい。ユーザ
のライフスタイルが多様化しており、それに適する自動車の形
態も多岐に渡るようになってきた。このような状況の中で、近
未来の自動車像、そして少し先の自動車像について夢を含めな
がら語り、それらを実現するための生産技術について議論する。
近未来の自動車像については、自動車メーカーの最新技術を基礎に
議論を展開し、少し先の自動車像については、自動車技術会生
産加工部門WGが1年間検討してきた内容について報告を頂く。
生産加工部門委員会委員長 青山英樹

プログラム：

- 9:40 開会挨拶 生産加工部門委員会委員長
慶應義塾大学 青山英樹氏
- 司 会 青山英樹氏(慶應義塾大学)
- 9:45 自動車政策の展開と近未来自動車への期待(仮)
経済産業省 田中茂明氏
- 10:15 電気自動車の現状と将来
慶應義塾大学大学院 佐々木正一氏
- 11:10 ガソリンエンジンの限界への挑戦(SKYACTIVE)
マツダ(株) 赤木 裕治氏
- 12:05 休憩
- 13:00 トヨタの安全・安心技術への取り組み
トヨタ自動車(株) 葛巻清吾氏
- 13:55 ヨーロッパにおける将来展開の動向
ビー・エム・ダブリュー(株) Nevijo Mance氏
- 14:50 休憩
- 15:00 20年後の自動車の姿 生産加工ワーキンググループ
- 16:15 閉会挨拶 生産加工部門委員会委員長
慶應義塾大学 青山英樹氏
- 16:20 閉会

◆プログラムは講師、会場の都合などにより予告なく変更となる場合があります。

日時：2011年12月9日(金) 9:30~17:00
会場：工学院大学アーバンテックホール
(東京都新宿区西新宿1-24-2)
主催：公益社団法人自動車技術会
協賛：(予定) (株)日本音響学会・(一社)日本機械学会・(公社)日本騒音制御工学会
企画：振動騒音部門委員会
定員：120名

参加費(消費税・テキスト1冊込)：
正会員 15,750円 学生会員 3,150円
賛助会員 22,050円 一般の方 31,500円
協賛学協会の会員 22,050円

参加申込方法：次のいずれかの方法でお申込み下さい。
① オンライン参加登録：(カード決済ができるようになりました) イベントカレンダー(【URL】 <http://www.jsae.or.jp/calendar/>) またはシンポジウムページ(【URL】 <http://www.jsae.or.jp/sympo/2011/scdl.php>)
② インターネットをご利用できない方：

上記、問合せ先へご連絡下さい。

参加申込締切日：2011年12月2日(金)

参加申込キャンセルについて：

申込締切日まで：キャンセル料は発生いたしません。ご入金済の場合は、送金手数料を除き返金いたします。

申込締切日翌日以降：ご出欠にかかわらずキャンセル料として、参加費全額をお申し受けます。なお、開催終了後、テキストは送付いたします。

参加のおすすめ

『軽量化』『EV/PHEV/HEV』『低燃費対応技術』をキーワードに基調講演、講演を行うと共に技術論議する事を目的に開催致します。NVHと燃費・軽量化の両立に関する基調講演を始め、両立構造を実現する為に有効な解析技術、設計手法等の技術紹介など興味深い演題を揃えました。講演者と参加者が気軽に議論できる場を提供致しますので、若手からベテラン技術者の方まで奮ってご参加下さい。

振動騒音部門委員会委員長 波頭伸哉

プログラム：

9:30 開会挨拶 振動騒音部門委員会委員長
日産自動車(株) 波頭伸哉氏

司会 塩崎 弘隆氏(三菱自動車工業(株))

9:40 自動車振動騒音 CAE の変遷と今後
トヨタ自動車(株) 山岡裕生氏

振動騒音部門委員会



委員長
波頭伸哉



幹事
駒田匡史



幹事
塩崎弘隆



幹事
須藤 晶



幹事
戸井武司

- 10:40 日産リーフの静粛化技術 —モータ走行時のギャノイズ低減技術 愛知機械工業(株) 濱野 崇氏
11:05 振動低減と軽量化を両立するSRS モジュール構造の実現 (株)本田技術研究所 近藤 隆氏
11:30 休憩
司会 戸井 武司氏(中央大学)
12:45 FR ハイブリッド車用パワートレイン(1 モータ, 2 クラッチ, ハイブリッドシステム)の音振対応技術 日産自動車(株) 永井久博氏
13:10 エンジン起振力パラメータの提案 (株)エステック 花島 萌氏
13:35 予混合圧縮着火燃焼を適用するディーゼルエンジンの騒音改善技術の開発 (株)いすゞ中央研究所 小澤 恒氏
14:00 休憩

司会 駒田 匡史氏(トヨタ自動車(株))

- 14:15 音源分離手法によるEV車の車内音成分分析技術 三菱自動車工業(株) 高橋 豊氏
14:40 タイヤ低騒音化技術 (株)ブリヂストン 和氣充幸氏
15:05 入力同定における誤差要因の考察と誤差指標値について 首都大学東京 吉村卓也氏
15:30 休憩

司会 波頭伸哉氏(日産自動車(株))

- 15:45 車両外部音場を表現する解析手法の開発 日本大学 見坐地一人氏
16:10 回転スピーカーによる中周波音響感度測定精度向上 (株)本田技術研究所 市川 佳氏
16:35 車室内の多領域音場制御 中央大学 Cho, Wan-Ho 氏
17:00 閉会

◆プログラムは講師、会場の都合などにより予告なく変更となる場合があります。

問合せ先：育成・イベントグループ 大平 Tel. 03-3262-8214 Fax. 03-3261-2204
【URL】 <http://www.jsae.or.jp/sympo/2011/scdl.php> E-mail: sympo@jsae.or.jp

日時：2011年12月14日(水) 10:00～17:05
会場：早稲田大学理工学部 63号館
(東京都新宿区大久保3-4-1)
主催：公益社団法人自動車技術会
協賛：(予定)(公社)石油学会・(一社)日本エネルギー学会・
(一社)日本機械学会・日本内燃機関連合会・(公社)日本
マリンエンジニアリング学会・(社)日本陸用内燃機
関協会

企画：ガソリン機関部門委員会
定員：120名

参加費(消費税込・テキスト1冊込)：
正会員 15,750円 学生会員 3,150円
賛助会員 22,050円 一般の方 31,500円
協賛学協会の会員 22,050円

参加申込方法：次のいずれかの方法でお申込み下さい。

- ①オンライン参加登録：(カード決済ができるようになりま
した) イベントカレンダー(【URL】 [http://www.jsae.or.jp/
calendar/](http://www.jsae.or.jp/calendar/)) またはシンポジウムページ(【URL】 [http://
www.jsae.or.jp/sympo/2011/scdl.php](http://www.jsae.or.jp/sympo/2011/scdl.php))
- ②インターネットをご利用できない方：
上記、問合せ先へご連絡下さい。

参加申込締切日：2011年12月7日(水)

参加申込キャンセルについて：

- 申込締切日まで：キャンセル料は発生いたしません。ご入金
済の場合は、送金手数料を除き返金いたし
ます。
- 申込締切日翌日以降：ご出欠にかかわらずキャンセル料として、
参加費全額をお申し受けます。なお、開催
終了後、テキストは送付いたします。

参加のおすすめ

ガソリンエンジンが直面する技術課題は、エネルギーセキュ
リティをベースにした各種エネルギー問題への対応、地球温暖
化対応のためのCO₂低減、大気汚染防止のための各有害排ガ
ス成分の浄化などがあり、これらの課題に対して、新開発ガソ
リン機関の燃焼技術、新コンセプトエンジン、ガソリン機関の
異常燃焼に関する研究、新燃焼技術、燃料関連技術等 将来
のガソリンエンジンの進むべき方向を示すとともに各分野の専
門家から最新技術動向を紹介していただく恒例のシンポジウム
を開催します。

今後のガソリンエンジン開発および関連技術開発の一助とす
るためにも皆様の積極的なご参加をお待ちしております。

ガソリン機関部門委員会委員長 志賀聖一

ガソリン機関部門委員会



委員長
志賀聖一



幹事
佐藤唯史



幹事
島崎勇一



幹事
津江光洋



幹事
前田義男

*技術者育成の要素を持ったシンポジウムを技術レベルにより技術者育成講座とし
て認定しています。

Standard Course：基礎，Intensive Course：中級，Professional Course：上級

プログラム：

- 10:00 開会挨拶 ガソリン機関部門委員会委員長
群馬大学大学院 志賀聖一氏
- 司会 津江 光洋氏(東京大学大学院)
ガソリン燃焼技術(Part1)
- 10:10 ブローダウン過給ガソリン HCCI エンジンの紹介
千葉大学 森吉 泰生氏
- 10:50 新型直列3気筒1.2L スーパーチャージャーガソリンエ
ンジンの燃焼性能設計
日産自動車(株) 三藤祐子氏
- 11:30 SKYACTIV-G 燃焼技術 マツダ(株) 養祖 隆氏
- 12:10 休憩
- 新機構・新コンセプトエンジン
- 司会 島崎 勇一氏(トヨタ自動車(株))
- 13:20 The Scuderi Split Cycle and the Miller Cycle: A
Perfect Match
Scuderi Group LLC Deryk Langlais 氏
- 14:00 家庭用コージェネレーション用・複リンク式高膨張
比ガスエンジン (株)本田技術研究所 直江 学氏
- 14:40 休憩
- ガソリン燃焼技術(Part2)
- 司会 前田 義男氏(株)本田技術研究所)
- 15:00 高過給SIエンジンでの異常燃焼—スーパーノックの
発生— 日本特殊陶業(株) 井上拓也氏
- 15:40 Solutions for EU6 Particulate Number in Gasoline
DI Engines AVL List GmbH Dr.Guenter Fraidl
- 16:20 燃料性状がエンジン燃焼に与える影響
トヨタ自動車(株) 佐々木望氏
- 17:00 閉会挨拶 九州大学大学院 村瀬英一氏
- 17:05 閉会

◆プログラムは講師、会場の都合などにより予告なく変更となる場合があります。

**参加者募集
関東支部**

第8回講演会 「21世紀と電気自動車」記号〔K〕

問合せ先：関東支部 田渡・大野 Tel. 0466-52-5758 Fax. 0466-52-5740
E-mail: SND52611@nifty.com

テーマ：「EV社会の実現に向けた次世代電動バスの開発・普及の取組み(試乗付き)」

15:20 第2グループ(20名)
15:50 第3グループ(20名)

日時：2011年12月20日(火) 13:15~16:30
会場：横浜市産学共同研究センター JRC 研究棟
住所：〒230-0045 横浜市鶴見区末広町1-1-40

16:30 閉場
定員：60名

【URL】<http://www.idec.or.jp/shisetsu/s9-access.php4>
集合場所：横浜市産学共同研究センター JRC 研究棟 大会議室
(JR 鶴見線・鶴見小野駅より徒歩5分)
会場にお越しの際は、公共交通機関を御利用下さい

申込方法：1) 氏名, 2) 勤務先及び所属署・役職名(学生の場合は学校名・学年), 3) 連絡先住所・電話番号・Fax 番号, 4) 会員番号を明記の上, 下記いずれかによりお申込み下さい。

集合時間：13:00
講演概要：地球温暖化対策と、枯渇の懸念を抱えた化石資源への依存からの脱却という時代の要請に応える次世代のモビリティとして世界中で電気自動車の開発が進んでいます。本講演では、協賛頂ける30余りの企業・機関にお集まりいただき、大型の設備投資をすることなく、新規事業参入を可能とする電気自動車を1年間で開発する取り組みとプロセス、並びにその技術の概要を紹介します。

(1) E-mail：返信により参加証を送信いたします。
(2) Fax：参加証送付先 Fax 番号をご記入下さい。
(3) 往復はがき：返信はがきに宛名(参加証送付先)をご記入下さい。

申込先：〒252-0805 神奈川県藤沢市円行2-25-1
セミナーハウス湘南台 いすゞ自動車(株)内
(公社)自動車技術会関東支部
Tel. 0466-52-5758 Fax. 0466-52-5740
E-mail: SND52611@nifty.com

スケジュール

13:15 21世紀社会と電気自動車
(株)SIM-Drive 地球展開部部長 兼 企画部部長 藁谷正裕氏
14:50 試乗会 第1グループ(20名)

申込締切日：2011年12月5日(月)
参加費：個人会員3,000円, 学生会員1,000円
賛助会員5,000円, 一般の方7,000円
(当日会場にていただきます。領収書を発行致します。)

**参加者募集
関東支部**

2011年度関東支部学術研究講演会

問合せ先：関東支部 田渡 Tel. 0466-52-5758 E-mail: jsaekanto03@jsae.or.jp

自動車技術会 関東支部では自動車技術に関連する研究や開発を行う技術者・研究者・学生を対象とした「2011年度公益社団法人自動車技術会 関東支部学術研究講演会」を開催いたします。他支部よりの参加・講演も可です。本講演会の今後の情報やプログラムなどは、関東支部ホームページ TOPICS の学術研究講演会の開催案内でお知らせいたします。

前刷集執筆要領, 講演申込書：関東支部ホームページ TOPICS 内の学術講演会の案内から入手できます。

【URL】<http://www.jsae.net/kanto>
主催：(公社)自動車技術会 関東支部
日時：2012年3月8日(木)
会場：日本大学理工学部駿河台キャンパス
(東京都千代田区神田駿河台1-8-14)

講演申込方法：必要事項を記入した講演申込書を関東支部事務局にメール添付にてお送りください。

講演形態：口頭発表, ポスター, 及びこれら両方でも結構です。尚, 英語での発表も可とします。口頭発表はプロジェクタを用い, 講演時間10分, 質疑応答5分とします。ポスターセッションでは, 研究成果物・製作物の展示などが可能です。

講演申込締切日：2011年12月2日(金)
前刷集原稿提出締切日：2012年1月20日(金)

参加費：無料(事前申し込み不要。直接会場受付にお越し下さい)

前刷集：1000円(発表者, (公社)自動車技術会会員は無料)

テーマ：「車体系材料の先端技術」
 日時：2011年11月11日(金) 10:00~16:40
 会場：同志社大学 京田辺校地
 趣旨：自動車技術会関西支部では、1997年度以降、機械設計法および燃料・軽量化・計測法・騒音振動・環境技術・リサイクル等をテーマに毎年2回の講習会を開催し、好評を博してきました。今回は「車体系材料の先端技術」と題して、新世代自動車車体の飛躍的な軽量化や電気自動車に適用できる革新的な技術の動向を紹介し、今後の車体構造のあり方を考える参考にしていただく機会を提供します。本講習では次世代材料開発の第一線で活躍されている諸氏にその取り組み内容と今後の動向を紹介いただきます。

スケジュール概要・内容・講師：

- 10:00 ご挨拶 自動車技術会関西支部支部長
マツダ(株) 金井誠太氏
- 10:10 自動車の軽量化ニーズと軽量化の取組
日産自動車(株) 遠藤雅哉氏
- 11:00 次世代鋼製環境対応車
(株)神戸製鋼所 中島悟博氏
- 11:50 昼休み
- 13:00 アルミ材料の先端技術と将来技術
古河スカイ(株) 戸次洋一郎氏
- 13:50 EVにおける素材の力による軽量化・熱マネージメント
三菱化学(株) 小久保章博氏

14:40 休憩
 15:00 CFRP 中間基材とその成形技術
 三菱レイヨン(株) 小川繁樹氏

15:50 総合討論

司会 同志社大学 田中達也氏

定員：60名

申込方法：1) 行事名(第×回例会, 第×回講習会, 技術者交流会など), 2) 行事開催日, 3) 申込者氏名, 4) 会員もしくは一般の別(会員の場合は会員番号), 5) 申込者所属(会社名・学校名)・部署(学校の場合, 学部名), 6) 職位(役職), 7) 連絡先電話番号・Fax 番号・E-mail, 8) その他(例会での交通手段) 支部でバスを運行する場合(バスを利用する・自分で例会先へ直行する)を明記の上, 下記連絡先の E-mail にてお申込下さい。

氏名, 会員番号, 会員資格, 勤務先, 連絡先と共に下記連絡先に申込下さい。

参加費：正会員と協賛学会会員 5,000 円

学生会員 3,500 円, 一般の方 7,000 円

(資料代含む, 昼食なし)

申込締切日：2011年11月4日(金)

連絡先：(公社)自動車技術会関西支部事務局

〒531-6008 大阪市北区大淀中 1-1-88-800

マツダ(株)大阪支社内

Tel. 06-6451-3630, Fax. 06-6451-3631

E-mail: jsaekansai@r4.dion.ne.jp

報告

2010年度 技術部門貢献賞

技術部門貢献賞は、技術会議の部門委員会活動において多大な貢献を認められた方に贈る賞として2008年度より実施しております。部門委員会の委員長、幹事、委員が対象で、当年度(1年間)の活動が対象となります。2010年度は以下の35名の方が受賞されました。

なお、授賞式は2011年8月31日に開催された技術会議において行われました。

(部門委員会名/所属)

- | | | |
|--------------------------|-----------------------------|-----------------------------|
| 村瀬 英一(ガソリン機関/九州大学) | 木村 智之(タイヤ・路面摩擦特性/いすゞ自動車) | 毛利 宏(アクティブセイフティ/山梨大学) |
| 中園 徹(ガス燃料エンジン/ヤンマー) | 伊藤 裕一(CFD技術/木更津工業高等専門学校) | 石橋 基範(ドライバ評価手法検討/マツダ) |
| 山崎 雅和(ディーゼル機関/本田技術研究所) | 飯田 明由(流体技術/豊橋技術科学大学) | 林 重希(インパクトバイオメカニクス/トヨタ自動車) |
| 山田 裕之(PM測定・評価/交通安全環境研究所) | 下野園 均(伝熱技術/日産自動車) | 山崎 幸浩(トラフィックセイフティ/本田技術研究所) |
| 田中 重行(燃料潤滑油/コスモ石油) | 須藤 晶(振動騒音/本田技術研究所) | 木村 賢治(ヒューマンファクタ/トヨタ自動車) |
| 野口 実(電気動力技術/本田技術研究所) | 立川 弘一(音質評価技術/エー・アンド・デイ) | 橘 学(材料/日産自動車) |
| 赤井 泉明(燃料電池/日本自動車研究所) | 上倉 泰(車室内環境技術/日野自動車) | 菅田 淳(疲労信頼性/広島大学大学院) |
| 熊谷 頼範(動力伝達系/本田技術研究所) | 水野 良造(構造強度/スズキ) | 丸山 慎一(リサイクル技術/トヨタ自動車) |
| 井手 徹(CVT・ハイブリッド/福寿工業) | 中西 栄三郎(構造形成技術/日産自動車) | 杉山 和見(生産加工/スズキ) |
| 安部 正人(車両運動性能/神奈川工科大学) | 高村 昭生(計測診断/小野測器) | 田中 尋真(モータースポーツ/本田技術研究所) |
| 玉正 忠嗣(車両特性デザイン/日産自動車) | 山口 亨(エレクトロニクス/首都大学東京) | 横井 行雄(ワイヤレス給電システム技術/長野日本無線) |
| 西尾 実(二輪車の運動特性/アブソリュート) | 北島 伸克(マルチメディア/ルネサスエレクトロニクス) | |

名古屋大学グローバル30国際プログラム群自動車工学プログラムは、常勤任期付教員の、准教授、又は教授職を募集する。採用教員は、工学研究科配属となり、夜間と週末の授業担当の可能性も含めて、1年上限8コース(1年8コマ※)を担当する。常勤の教員として、オフィスアワーを持ち、学生に履修指導を行い、その他の通常の教育業務に付帯する業務を行う。
(※日本において1コース又は1コマは1週間90分で15週間に相当する。)

担当予定コース

- Thermodynamics(熱力学), Heat Transfer Engineering (伝熱工学)
- Fluid Mechanics(流体力学), Mechanics of Materials(材料力学)
- Vehicle Engines(自動車エンジン), Vehicle Structure(自動車構造)

応募資格

- 1) 自動車工学又は関係分野での研究開発の経験の有すること
- 2) 自動車工学又は関係分野での教育経験を有すること
- 3) 上記の担当コースを英語で行える能力があること
- 4) 学部及び大学院レベルの学生への指導能力
- 5) 日本人向けのコースでの授業担当や、大学運営業務などを含めて、大学の国際プログラムに広く関わることを厭わないこと。
- 6) 学生、教員、事務、地域との関係において、コミュニケーション能力があること。

望ましい能力・経験

- 1) 自動車工学又は関係分野での博士号を持つことが望ましい
- 2) 多文化環境での仕事経験
- 3) 日本語能力(必須ではない)
- 4) 日本以外の国籍を持つことが望ましい

名古屋大学は、日本で学ぶ世界各国からの留学生に対して、学部レベルの初等コースの教育を行うことに卓越した能力を示すことができる人材を募集している。

当初の採用期間は2012年4月1日～2015年3月31日。この職は、実績に対する評価及びG30国際プログラム群の予算により、3年を限度に更新がみとめられる場合がある。

給与：年俸400万～1000万円(全て含む)

本学支給基準(年俸制適用職員給与規程)に基づき、経験年数及び能力に応じて決定する。
税金、各種保険料は、年俸から差し引かれる。

提出書類(英語か日本語で作成すること)

- 1) カバーレター
- 2) 履歴書(国籍、大学卒業年月を記載すること)
- 3) 大学院の成績証明書(写)(応募の際には、公式なコピーでなくても良い)
- 4) 推薦書3通(1年以内に書かれたもので、推薦者の氏名、職業、所属先、応募者との関係及び知り合ってから期間及び連絡先を記載すること)(注：第1選考で選考された候補者には、評価の確認を行います。)
- 5) 推薦書3通(1年以内に書かれたもので、推薦者の氏名、職業、所属先、応募者との関係及び知り合ってから期間及び連絡先を記載すること)(注：第1選考で選考された候補者には、評価の確認を行います。)
- 6) 推薦書3通(1年以内に書かれたもので、推薦者の氏名、職業、所属先、応募者との関係及び知り合ってから期間及び連絡先を記載すること)(注：第1選考で選考された候補者には、評価の確認を行います。)
- 7) 推薦書3通(1年以内に書かれたもので、推薦者の氏名、職業、所属先、応募者との関係及び知り合ってから期間及び連絡先を記載すること)(注：第1選考で選考された候補者には、評価の確認を行います。)
- 8) 推薦書3通(1年以内に書かれたもので、推薦者の氏名、職業、所属先、応募者との関係及び知り合ってから期間及び連絡先を記載すること)(注：第1選考で選考された候補者には、評価の確認を行います。)

応募資料送付先

International Planning Division
Nagoya University
Furo-cho, Chikusa-ku, Nagoya 464-8601, Japan
名古屋大学国際企画課
名古屋千種区不老町

問い合わせ先：鈴木達也 教授

名古屋大学 大学院工学研究科 機械理工学専攻
E-mail: t_suzuki@nuem.nagoya-u.ac.jp(日本語および英語可)

上記の資料を封筒に入れてたうえて、封筒に赤字で「国際プログラム群 No.KA16 教員募集」と記載してください。書類不備の場合は、受け付けない。

締め切り：2011年10月31日

(注：採用者にのみ、連絡。)
名古屋大学国際プログラム群教育方針に関する詳細な情報は下記アドレスをご覧ください。

<http://www.nagoya-u.ac.jp/en/global-info/employment/>

10月12日(水) 2011年秋季大会フアィナルタイムテーブル

2011年9月12日現在

札幌コンベンションセンター (札幌市白石区東札幌6条1-1-1)											
会場	104+105 (1F)	107+108 (1F)	中ホールA (1F)	中ホールB (1F)	201+202 (2F)	204 (2F)	206 (2F)	207 (2F)	小ホール (2F)	エントランスホール (1F)	パブリックスペース (1F)
9:30	1 事故分析I 3 4 【前副集No.91-11】 (講演2は取下げ) 10:45	13 ガソリン 14 エンジン制御 15 16 18 【前副集No.94-11】 (講演17は取下げ) 11:35	27 運転支援I 28 29 30 31 32 33 【前副集No.97-11】	43 操作系HMI 44 45 46 47 48 【前副集No.100-11】	58 車体工学I 59 60 61 62 【前副集No.103-11】 11:35	72 ハイブリッド車 73 74 75 【前副集No.106-11】 11:10	85 振動・ 86 騒音解析技術 87 88 89 90 【前副集No.109-11】	100 金属材料I 101 102 103 104 【前副集No.112-11】 14:35 14:55	110 ディーゼル 111 燃焼モデル 112 113 114 【前副集No.114-11】 11:35	学生フォーミュラ車前展示	10:00
13:00	5 事故分析II 7 【前副集No.92-11】 (講演6は取下げ) 13:45 14:05	19 ガソリン 20 排気システム 21 22 【前副集No.95-11】 14:40 15:00	34 運転支援II 35 36 37 【前副集No.98-11】 15:10 15:30	49 視覚HMI 50 51 52 53 【前副集No.101-11】 15:05 15:25	63 車体工学II 64 65 66 【前副集No.104-11】 14:10 14:30	76 バッテリー/パワー 77 エレクトロニクス 78 79 80 【前副集No.107-11】 14:35 14:55	91 タイヤ/ 92 路面騒音・乗り心地 93 94 95 【前副集No.110-11】 15:05 15:25	105 金属材料II 106 107 108 109 【前副集No.113-11】 16:10	115 尿素SCR 116 システム 117 118 【前副集No.115-11】 14:10 14:30	119 ディーゼル 120 後処理 121 122 【前副集No.116-11】	17:00
15:00	9 衝突安全I 10 11 12 【前副集No.93-11】 15:45	23 エンジン 24 点火システム 25 26 【前副集No.96-11】 16:40	38 CO ₂ 低減 39 40 41 42 【前副集No.99-11】	54 運転負担 55 56 57 【前副集No.102-11】 17:05	67 ブレーキ 68 69 70 71 【前副集No.105-11】 16:35	81 充電システム 82 83 84 【前副集No.108-11】	96 パワートレインの 97 振動・騒音 98 99 【前副集No.111-11】	17:00	17:00		

■講演時間：原則として25分/1講演(講演15分、質疑など10分)
 ■講演取下げにより、該当講演時間が休憩になる場合があります。
 ■講演番号を□印で囲んだ講演は、英語講演です。
 ■前副集は、セッション毎の冊子になっており、【】が前副集No.です。なお、前副集の事前販売は行っていません。

10月13日(木) 2011年秋季大会フアイナルタイムテーブル

2011年9月12日現在

札幌コンベンションセンター (札幌市白石区東札幌6条1-1-1)						
会場	104+105 (1F)	107+108 (1F)	中ホールA (1F)	中ホールB (1F)	201+202 (2F)	204 (2F)
9:30	123 タイヤI 124 125 126 【前副集No.117-11】	131 代替燃料 132 133 134 135 136 【前副集No.119-11】	142 居眠り・ 143 飲酒運転防止 144 145 146 147 148 【前副集No.121-11】	153 運転行動I 154 155 156 157 158 【前副集No.123-11】		163 低CO ₂ 車両 164 165 166 167 168 【前副集No.125-11】
11:10	11:10	12:10	12:10	12:10	11:35	11:10
13:00	127 タイヤII 128 129 130 【前副集No.118-11】	137 ガスエンジン 138 139 140 141 【前副集No.120-11】	149 ドライバ状態推 150 定 151 152 【前副集No.122-11】	159 運転行動II 160 161 162 【前副集No.124-11】	173 振動・騒音 174 低減技術 175 176 177 【前副集No.127-11】	181 計測・生産技術 183 184 185 【前副集No.129-11】 (講演182は取下げ)
14:10	14:10	15:05	15:10	14:40	13:45	15:00
15:00					178 車両走行燃費 179 180 【前副集No.128-11】	186 燃料・潤滑油・ 187 高分子材料 188 189 190 191 192 【前副集No.130-11】
16:00					15:35	15:35
17:00					16:15	16:00
					17:15	17:15
					Technical Review	
					16:15	16:00
					17:15	17:15
					市民公開特別講演	
					19:00	
					技術者交流会	
					17:30	
					19:00	

- 講演時間：原則として25分/1講演(講演15分、質疑など10分)
- 講演取下げにより、該当講演時間が休憩になる場合があります。
- 講演番号を□印で囲んだ講演は、英語講演です。
- 前副集は、セッション毎の冊子になっており、【】が前副集No.です。なお、前副集の事前販売は行っておりません。

10月14日(金) 2011年秋季大会フアィナルタイムテーブル

2011年9月12日現在

札幌コンベンションセンター (札幌市白石区東札幌6条1-1-1)											
会場	104+105 (1F)	107+108 (1F)	中ホールA (1F)	中ホールB (1F)	201+202 (2F)	204 (2F)	206 (2F)	207 (2F)	小ホール (2F)	エントランス ホール (1F)	パブリック スペース (1F)
9:30	188 歩行者保護 199 200 201 【前副集No.132-11】	209 トランスマッションI 210 211 212 213 【前副集No.135-11】	223 衝突回避 I 224 225 226 【前副集No.138-11】	235 ヒヤリハット 236 237 238 239 【前副集No.141-11】	247 車両運動性能 I 248 249 250 251 252 【前副集No.144-11】	262 ディーゼル 263 エンジン 264 265 10分間休憩 266 267 【前副集No.147-11】	276 環境制御 277 278 279 280 【前副集No.150-11】	292 パワートレイン 293 トライボロジー I 294 295 296 【前副集No.153-11】	305 エンジン計測 306 307 308 309 【前副集No.156-11】	10:00	学生フオーミユラ車両展示
11:10	11:10	11:10	11:10	11:35	11:35	12:10	11:35	11:35	11:35	10:00	産学ホスターセッション
13:00	202 衝突安全II-① 203 204 205 【前副集No.133-11】	214 トランスマッションII 215 216 217 【前副集No.136-11】	227 衝突回避 II 228 229 230 【前副集No.139-11】 (講演228は取下げ)	240 運転行動III 241 242 【前副集No.142-11】	253 車両運動性能II 254 255 256 【前副集No.145-11】	268 ディーゼル燃焼 269 270 271 272 【前副集No.148-11】	283 空力 284 285 286 【前副集No.151-11】 (講演281,282は取下げ)	297 パワートレイン 298 トライボロジーII 299 300 【前副集No.154-11】	310 HCCII 311 312 313 【前副集No.157-11】	14:10 14:30	14:10 14:30
15:00	206 衝突安全II-② 208 【前副集No.134-11】 (講演207は取下げ)	219 燃料電池 220 221 222 【前副集No.137-11】 (講演218は取下げ)	231 エンジン開発 232 233 234 【前副集No.140-11】	243 設計技術と 車両整備 244 245 246 【前副集No.143-11】	257 車両運動性能III 258 259 260 261 269 【前副集No.146-11】 (講演258は取下げ)	273 ディーゼル 274 エンジン制御 275 【前副集No.149-11】	287 CFD 288 289 290 291 【前副集No.152-11】	301 パワートレイン 302 トライボロジーIII 303 304 【前副集No.155-11】	314 HCCI II 315 316 【前副集No.158-11】 (講演317は取下げ)	14:10 14:30	15:45
17:00	15:20	16:10	15:45	17:05	16:35	16:40	16:35	16:10	15:45	16:00	16:00

■講演時間：原則として25分/1講演(講演15分、質疑など10分)
 ■講演取下げにより、該当講演時間が休憩になる場合があります。
 ■講演番号を□印で囲んだ講演は、英語講演です。
 ■前副集は、セッション毎の冊子になっており、【】が前副集No.です。なお、前副集の事前販売は行っておりません。



国土交通省

Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism



「被災地における新たなバリアフリー車両の活用・実証事業」の実施について

国土交通省では、新しいバリアフリー対応の乗合タクシー車両やユニバーサルデザインタクシー車両(UDタクシー)の普及に向け、東日本大震災の被災地域においてこれらの車両を運行する「被災地における新たなバリアフリー車両の活用・実証事業」を行うこととしますので、その概略をお知らせいたします。

なお、本事業は、トヨタ自動車及び日産自動車より車両の無償提供等の協力を得て実施いたします。

また、実施場所等事業の具体的な内容等につきましては、決まり次第改めてお知らせいたします。

◆事業の経緯・趣旨

国土交通省では、平成20年度より3ヶ年で、学識経験者、障害者、運送事業者、自動車メーカー等の関係者の協力のもと、「地域のニーズに応じたバス・タクシーに係るバリアフリー車両の開発」事業を実施し、平成23年7月1日付で報告書を公表いたしました。また、その成果として、室内空間を広くとる等の工夫をこらしたバリアフリー対応の新しい乗合タクシーやUDタクシーが発売されたところで、

今般実施する「被災地における新たなバリアフリー車両の活用・実証事業」は、トヨタ自動車及び日産自動車より乗合タクシー及びUDタクシーの無償提供等の協力を得て、全国乗用自動車連合会(全乗連)とも連携し、東日本大震災の被災地域の中から特定の市町村又は事業者を選定し、これらの

新しいバリアフリー車両を運行して、その意義や効果を確認することとしております。これにより、被災地における移動手段の確保等に貢献しつつ、これら新しいバリアフリー車両の今後の普及に活かしていくことを目的とするものです。

◆トヨタ自動車及び日産自動車より提供される車両と配布先バリアフリー対応の乗合タクシー

トヨタ自動車より2両無償提供(2市町村に提供)

UDタクシー

日産自動車より10両無償貸与(10事業者に提供)

※これらの車両の提供先は、公募等の手続きを行った後、国土交通省が主催する検討会(学識経験者、全乗連、関係自治体等から構成)で選定することになります。

◆その他

事業スキームの概要は、別添資料のとおりです。

〔問い合わせ先〕

国土交通省自動車局総務課企画室(担当 加藤)

国土交通省自動車局旅客課(担当 鈴木)

TEL 03-5253-8111(内線 41182, 41263)

03-5253-8564, 8573(直通)



書店でも購入できます

書泉グランデにて下記の書籍を取扱っております。

- ・自動車技術(2010年6月号～最新号)
- ・新日英中自動車用語辞典(2011年5月発刊)
- ・自動車工学—基礎—(2009年3月追補版)
- ・自動車技術ハンドブック第1分冊基礎・理論編
- ・自動車技術ハンドブック第2分冊環境・安全編
- ・自動車技術ハンドブック第3分冊設計(デザイン・ボディ)編
- ・自動車技術ハンドブック第4分冊設計(パワートレイン)編
- ・自動車技術ハンドブック第5分冊設計(シャシ)編
- ・自動車技術ハンドブック第6分冊試験・評価(パワートレイン)編
- ・自動車技術ハンドブック第7分冊試験・評価(車両)編
- ・自動車技術ハンドブック第8分冊生産・品質編
- ・自動車技術ハンドブック第9分冊整備・リサイクル・LCA編
- ・自動車技術ハンドブック第10分冊設計(EV・ハイブリッド)編

◆書泉グランデ 6F

東京都千代田区神田神保町 1-3-2

Tel. 03-3295-0011(代表)

最寄駅：都営新宿線 神保町 徒歩3分

公益社団法人 自動車技術会 倫理規定

自動車技術が人類、社会、産業界に及ぼす影響は極めて大きく、かつグローバルで多岐にわたっています。我々自動車技術会会員は、このような状況をよく認識し、専門的知識、技術、経験を最大限に発揮し技術の発展に寄与することはもとより、設立の趣旨を踏まえ人類の安全・健康・福祉の向上、地球環境の保全のために、最善を尽くすことを誓い以下のよう

に綱領を定めます。

1. (技術者としての責務) 専門的知識、技術、経験、良識に基づき、「豊かな環境」、「健全な社会」、「安心で健康な生活」の増進・向上を促進するために最善を尽くします。
2. (社会に対する貢献) 現在及び将来の人々の安全と福祉、健康に対する責任を自覚し、自然及び地球環境の保全に努め、人類の持続的発展を目指して全力を尽くします。
3. (自己研鑽・技術継承) 専門的知識、技術、経験、人格などを継続的な自己研鑽により常に高める努力をします。また後進に対し積極的に指導、援助、激励を行い技術継承に努めます。
4. (権利の尊重) 互いに人権、権利、プライバシーを尊重し、他者の業績である知的成果、知的財産権を侵しません。
5. (情報の発信) 常に中立的、客観的な立場から誠意を持って研究内容や成果を社会に正しく説明するように努めます。
6. (国際性・公平性) 国際的視野を持ち文化・民族の多様性に配慮し、全ての人々に公平・誠実に対応します。

支部連絡先

- 北海道支部** 〒060-8628 北海道札幌市北区北13条西8
北海道大学大学院 工学研究科エネルギー環境システム専攻
Tel. 011-706-6381 Fax. 011-706-7889
- 東北支部** 〒986-8580 宮城県石巻市南境新水戸1
石巻専修大学 理工学部
Tel. 0225-22-7716 ex3123 Fax. 0225-22-7746
- 関東支部** 〒252-0805 藤沢市円行2-25-1
セミナーハウス湘南台・いすゞ自動車(株)内
Tel. 0466-52-5758 Fax. 0466-52-5740
- 中部支部** 〒448-8661 愛知県刈谷市昭和町1-1
(株)デンソー内
Tel. 0566-25-5953 Fax. 0566-25-4897
- 関西支部** 〒531-6008 大阪市北区大淀中1-1-88-800
マツダ(株)大阪支社内
Tel. 06-6451-3630 Fax. 06-6451-3631
- 九州支部** 〒819-0395 福岡市西区元岡744
九州大学大学院工学研究院
機械工学部門
Tel. 092-802-3155 Fax. 092-802-3155

●複写をされる方に

本誌に掲載された著作物を複写したい方は、次の(一社)学術著作権協会より許諾を受けてください。但し、(株)日本複写権センターと包括複写許諾契約を締結されている企業等法人はその必要がありません。
著作物の転載・翻訳のような複写以外の許諾は、直接本会へご連絡下さい。

一般社団法人学術著作権協会

〒107-0052 東京都港区赤坂9-6-41 乃木坂ビル
Tel 03-3475-5618 Fax 03-3475-5619
E-mail info@jaacc.jp

●アメリカ合衆国における複写については、下記へ連絡して下さい。

Copyright Clearance Center, Inc. 222 Rosewood Drive, Danvers, MA 01923, U.S.A. Phone 1-978-750-8400 Fax 1-978-646-8600
http://copyright.com/

©公益社団法人 自動車技術会 2011

本誌に掲載されたすべての内容は、公益社団法人自動車技術会の許可なく転載・複写することはできません。

会誌編集委員会

- 委員長** 伊藤利彦(日産自動車)
副委員長 天谷賢児(群馬大学)
幹事 高橋裕樹(本田技術研究所)
西山一郎(日野自動車)
委員 神谷保(トヨタ自動車)
栗谷川幸代(日本大学)
島岡信次(マツダ)
関根道昭(交通安全環境研究所)
玉巻宏章(スズキ)
田中浩文(ダイハツ工業)
角田隆(富士重工業)
橋川淳(デンソー)
藤岡哲雄(三菱自動車工業)
古谷博秀(産業技術総合研究所)
松本純一(日本自動車研究所)
武藤一夫(静岡理科大学)
矢澤滋夫(三菱ふそうトラック・バス)
山岡士朗(日立製作所)
吉川暢宏(東京大学)
脇村智文(いすゞ自動車)
渡邊泰州(UDトラックス)

編集後記

21世紀は第3の波である情報化社会にかわり、コンセプトユアル社会(=既成概念にとらわれず新しい視点からの価値創造)となってきています。現在、中国、インドをはじめとした新興国と先進国との所得格差が収斂するコンバージェンスの時代へと突き進んでいますが、同時に雇用市場においても、先進国で働くナレッジワーカー(専門性)の仕事が、機械化(ルーチンワーク)、アジア(低コスト)に取って代われつつあります。日本のモノづくりも良き伝統を今一度見直し、ジャパン・プレミアムが今後も世界を席卷して欲しいとの想いから今号を企画いたしました。

(高橋 裕樹)

東日本の大震災、そして原発被害、さらに台風12号がもたらした紀伊半島を中心とする浸水被害など大きな災害が起こる中、輪をかけて未曾有の円高が製造業に大きな痛手を与えています。そんな暗い出来事が続く中、なでしこジャパンの頑張りは日本に大きな励みをもたらしてくれました。

本号の特集では、なでしこジャパンの活躍に勝るとも劣らない日本のモノづくりの素晴らしさ、大切さをあらためて認識していただきたく、広く産官学よりモノづくりに貢献する技術を紹介していただくことにしました。モノづくりに携わる会員の皆さんが自信と元気を会得していただく一助となれば幸いです。また、執筆を快諾いただいた各位に心より感謝いたします。

(神谷 保)

自動車技術 Vol. 65, No. 10, 2011.

2011年9月25日 印刷
2011年10月1日 発行

編集発行人 新井 雅隆

発行所 公益社団法人 自動車技術会
〒102-0076 東京都千代田区五番町10番2号
電話 03-3262-8211

印刷所 株式会社 精興社

定価 2,625円 (本体 2,500円)